

4歳児 ゆり組 保育指導案

在籍数 男児18名 女児14名 計32名
指導者 担任 光枝 祥子
副担任 佐野 麻貴
学習・生活支援員 早川 菊枝

1 幼児の実態 ★…研究との関わり

<生活習慣>

- ・基本的な生活習慣はほぼ自立しており、身の回りのことは自分でしながら園生活を進めている。一日の園生活に見通しをもち、遊んだ場や遊具の片付けにも進んで取り組んでいる。
- ★教師が、好きな遊びの中ではかかわることの少ない友達同士を意図的に生活グループとして設定したことで、学級のいろいろな友達とかかわる楽しさを徐々に感じている。昼食時や降園時など、グループの友達と一緒に生活を進める中で、学級の一員としての意識が高まってきている。

<遊びへの取組>

- ★校庭や体育館を活用し、縄跳び、リレー、しっぽ取り、中当てドッジボールなどの遊びに取り組む中で多様な動きを経験するとともに、友達と一緒に活動する楽しさを味わっている。一部の幼児には、苦手な活動に対して参加を渋ったり、遊びの途中で抜けてしまったりする姿も見られる。
- ・保育室の他にも、保育室前の廊下や遊戯室も自分たちの遊びの場として活用し、したい遊びを楽しんでいる。
- ・イメージをもって積み木やゲームボックスを構成したり、遊びに必要な物を作るために空き箱を選択し工夫して遊んだりしている。
- ・カルタ、すごろく、トランプなどの正月遊びを楽しみながら、文字や数に親しんでいる。引きゴマは全員が回せるようになり、繰り返し取り組む中で「キノコ回し」「タイヤ回し」「傘回し」など自分たちで回し方を考えるようになってきている。
- ・遊びへの継続時間が長くなり、遊び始めから片付けまで一つの遊びにじっくり取り組む幼児が多い。遊び始めに、活動への意欲や目的がもてるよう教師の援助を必要とする幼児も数名いる。

<学級全体の取組>

- ・学級全員でする運動遊びや表現遊びに喜んで取り組んでいる。遊びのルールや動きが分かり、好きな遊びの中でも友達と共通の経験を一緒に楽しんでいる。
- ★異年齢児、小学生、図書館司書、ALT、スクールカウンセラー、巡回アドバイザーや来園者など、誰に対しても安心してかかわり、自分の思いを伝える幼児が多い。自分の思いを表現したいという気持ちが強い幼児へは、相手の思いを受け止めたり話を聞いたりする場面では、指導が必要である。

2 期のねらい IV期（1～3月）

- 気の合う友達に自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを受け止めたりしながら、遊びを進めていこうとする。
- 学級や園全体ですることに興味をもち、自分の力を発揮する。
- 学級や園全体のために必要な役割を知り、みんなのために活動する嬉しさを味わったり、進級を楽しみにしたりする。

3 週のねらいと内容

- 自分の健康に関心をもち、すすんで手洗いやうがい、衣服の調節に取り組む。
- 学級の一員としての自覚をもち、友達と一緒に遊びや生活を進める。
- 寒さに負けず、戸外で全身を思い切り動かして遊ぶ楽しさを味わう。
 - ・手洗いやうがいに丁寧に取り組んだり、活動に合わせて上着の着脱をしたりする。
 - ・一日の生活に見通しをもち、教師や友達と声を掛け合って活動を進める。
 - ・遊びのルールを守ることの大切さや楽しさを感じる。
 - ・自分なりのめあてをもって、縄跳びやフープなどに繰り返し取り組む。

4 本時のねらいと内容

- 教師や友達、来園者に、自分からすすんで挨拶をする。
- 教師や友達と一緒にルールのある運動遊びを楽しむ。
 - ・遊びのルールが分かり、友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。
 - ・遊びに必要な用具を自分たちで用意したり、片付けたりする。
 - ・思い切り体を動かして遊ぶ楽しさや、教師や友達と思いを言葉で伝え合う楽しさを味わう。

5 展開

**<健康な体と強い心を育てるための
4歳児 指導のポイント>**
教師や友達と一緒に、ルールのある遊びを
したり、様々な用具や遊具を使ったりする。



【中当てドッジボール】
<活動選択の理由>
・ルールのある遊びに取り組むことが友達関係の広がりにつながり、自分の思いを伝えたり友達の思いを受け止めたりする経験になると考えた。

<予想される幼児の姿>
・校庭のラインを活用し遊びの場に集まる。
・外野(黄色チーム)の幼児を決める。
・教師や友達をねらってボールを投げたり、ボールから逃げたりする動きを楽しむ。
・教師の合図で遊びを一旦終了し、水分補給をしたり、新たな外野を決めたりする。

【長縄跳び】
<活動選択の理由>
・繰り返し取り組む中で、できるようになった喜びを味わったり、これからできるようになる期待をもったりすると考えた。
また、順番や交代などルールを守る必然性があり、友達と心を通わせる楽しさも感じられると考えた。

<予想される幼児の姿>
・順番に並ぶ。
・「郵便屋さんの落し物を歌ってください」「跳んだ回数を数えてください」など、教師に縄の回し方を伝える。
・歌に合わせて跳んだり、跳んだ回数を数えたりして自分なりのめあてに向かって繰り返し挑戦する。

6 評価

- 教師や学級の友達、来園者に、すすんで挨拶していたか。
- 遊びのルールが分かり、教師や友達と一緒に楽しんでいたか。

7 本園の「特別の教科道徳 内容項目につながる姿」と関連した評価

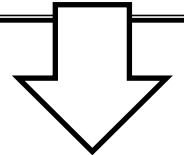
- 【意 欲】自分のしたい遊びに、喜んで取り組んでいたか。
- 【思いやり】一人一人がいろいろな考えをもつことを感じ、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わっていたか。

本園の『特別の教科道徳 内容項目につながる姿』より
A 主として自分自身に関すること

【個性の伸長】（キーワード：●意欲）
いろいろなことに興味や関心をもって取り組んだり、自分のしたいことに夢中になったりする。

B 主として人との関わりに関すること

【友情、信頼】（キーワード：◆思いやり）
一人一人がいろいろな考えをもつことを知り、気に入った友達と一緒に遊ぶことを楽しみながら友達関係を広げていく。



☆環境構成 ●意欲 ◆思いやり

☆思い切り体を動かすことが出来、ボールを当てる楽しさも感じられるよう、参加する幼児の人数に合わせてコートを広さを調整し、ビニルテープで示す

- 投げる楽しさにも寄り添い、「当たってしまったら失敗」という気持ちを幼児がもたないようにする。
- ◆ボールの取り合いや、「当たった」「当たっていない」など、思いがぶつかってしまった際は、互いの思いを受け止め、周囲の幼児と一緒にみんなでどうすればよいか考えていく。
- 勝ち負けではなく、「みんなで遊んで楽しかった」という思いがもてるよう、活動の最後に全員がチャンピオンになる。

☆一本の長縄を使うことで、順番に跳んだり一緒に跳んだりし、友達と一緒に活動することの楽しさを感じられるようにする。

- 一人一人のリズムに合わせて縄を回したり、短い歌に合わせて最後まで続けて跳ぶことができるようにしたりすることで、成功感が味わえるようにする。
- 何回も跳ぶことができる幼児へは、跳んだ回数を数えたり、友達と一緒に跳ぶ方法を知らせたりして、新たなめあてをもって取り組めるよう援助する。